

※著作権取得済み

貸し農園 障害者生き生き

積極的な障害者雇用を目指す企業向けの貸し農園「わーくはびねす農園」おおよそ「枚方」が、枚方市杉に開園した。企業が農園の区画を借りて、採用した障害者に働いてもらう。障害者の法定雇用率を満たすことが難しい企業で利用が広がっており、農園の運営会社は、「障害のある人の働く意欲と経済的自立を支援したい」としている。

(久場俊子)

枚方にオープン



野菜作りの準備作業をする障害者ら（枚方で）

農園（約1万3500平方メートル）は、市と障害者の就労を支援する「エスプールプラス」（東京都）が昨秋、協定を締結したことを受け、同社が10月に開設した。ビニールハウス内に30区画あり計90人の障害者が働ける。現在府内を中心に7社が利用料を支払って借り上げ、知的障害や精神障害のある20〜60歳代の34人が野

障害者の法定雇用率 障害者の社会参加を実現するため、障害者雇用促進法では、民間企業や国、地方自治体に対し、従業員的一定割合以上の障害者雇用を義務づけている。企業では3月から2.2%から2.3%に引き上げられた。厚生労働省によると、2020年に法定雇用率を達成した企業の割合は49%。

企業と就労希望者橋渡し 法定雇用率改善に一助

菜栽培用のプランターの設置準備などを進めている。府の最低賃金が適用されるため、1日6時間、月22日間勤務したとすると、13万円程度の月給が支払われるという。求人情報を見て応募したという知的障害のある男性（39）は、「みんなと一緒に野菜作りは楽しいと思う」と笑顔を見せる。

農園を利用するIT企業「アイスター」（大阪市）の角谷雄社長は、「業務の性質上、法定雇用率の達成が課題だった。収穫した野菜は社員の希望者に配布したり、地域貢献として子ども食堂に提供したりすることを考えている」と語る。

市福祉事務所は「農業という新しい就業の選択肢が増えるのは良いこと」として、市内の関連事業所などにチラシを配布。エスプールプラスの担当者は「野菜作りにはノルマがなく、個人のリズムや特性に応じて仕事ができる。長く楽しく働けると思うので、関心があれば連絡してほしい」と話している。問い合わせは同社（0120・982・6555）へ。